

—大阪大学— NewsLetter



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

NO. 74

Quarterly
Magazine
Winter
2016

Nobel Prize Special Feature

世界中が注目
ノーベル賞受賞の「オートファジー」

阪大に国際的な共同研究拠点を

Cover Feature : Osaka University Sumo Club

「柔よく剛を制す」相撲部

相撲部

2016年7月開催の第41回西日本学生相撲個人体重別選手権大会で強豪の私学勢に勝ち、主将の中山皓太郎さん(経済学部3年)が85kg未満級で優勝、副主将の新田龍生さん(経済学部3年)は65kg未満級で3位に輝いた。「もっと強く」の想いを胸に、部員らはコンクリートに敷いたマットを土俵に、稽古を重ねている。(3ページにインタビュー記事を掲載)

■大阪大学相撲部…2012年創部。部員数は12人(うち2名が女性)。火・金曜日は近隣小学校の土俵を借りて、土曜日は豊中キャンパス第2体育館前ピロティに敷いたマットの上で稽古を重ねている。

柔よく剛を制す

Osaka University Sumo Club

— 逆境を拓いた、若き力士の活躍 —





相撲部

「土俵がない、指導者もいない」それでも努力を重ね、金星を掴んだ阪大相撲部

常設の土俵がない、指導者もいない。このような逆境を自分たちの努力で乗り越え、国立大学勢が殆ど結果を残せなかった大会で優勝するなど、異例の躍進を遂げた阪大相撲部。「もっと強く」の想いを胸に、部員らは毎週「マット土俵」で汗を流している。

▼「マット土俵」で稽古の日々

大阪大学相撲部は、常設の土俵がないため、コンクリートに敷いたマットを土俵代わりにしている。この「マット土俵」は、土の土俵と違い、取組時に相手の突進を滑りながら受け流すことが出来ないため、土の土俵を使用する大会本番を想定した稽古環境として大きな問題があるだけでなく、土俵外に大きく飛び出して倒れた際に、コンクリートで頭を打ち怪我をする危険性もある。また歴史が創部4年と浅いため、指導者もいない。そのため稽古の内容は、部員が自分たちで考えなければならぬ。

このような逆境にも負けず、主将の中山皓

太郎さんは、相撲入門書や動画を徹底的に研究し、稽古方法を考案。副主将の新田龍生さんが「同じ階級の強い選手の映像を何度も見て、自分の動きに取り入れた」と話すように、阪大生ならではの「頭脳」を生かしている。

▼私学の強豪から頭脳戦で金星

そうして迎えた2016年7月の第41回西日本学生相撲個人体重別選手権大会。この大会は、中山さんが過去2回、初戦敗退するなど、国立大学勢は殆ど結果を残せていない。結果は、副主将の新田さんが初出場にもかかわらず65kg未満級個人3位、主将の中山さんが85kg未満級での個人優勝の快挙を達成した。



●主将 中山皓太郎さん ●副主将 新田龍生さん

▼次は「団体戦優勝」を

相撲の醍醐味について、中山さんは「ルールが単純なだけに奥が深い。自分に合った戦い方をすれば、誰でも活躍できる」、新田さんは「自分より体が大きい相手を負かした時が一番嬉しい」と語る。

逆境にめげず掴んだ金星に感銘を受けた各所の人々から支援が集まり、より良い練習環境も整いつつある。

「これで、もっと強くなれる」と中山さん。主将・副主将の活躍は部員たちの心にも火をつけた。

次に狙うは「団体戦優勝」だ。

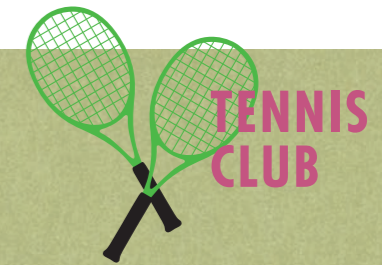
マット土俵の作り方



① 倉庫からマットを取り出し ▶ ② コンクリートの上に敷く ▶ ③ カバーを被せ ▶ ④ 俵替わりのスポンジを並べ完成



●「第41回西日本学生相撲個人体重別選手権大会」(左)65キロ未満級個人3位の盾：新田龍生さん (右)85キロ未満級個人優勝の表彰状：中山皓太郎さん

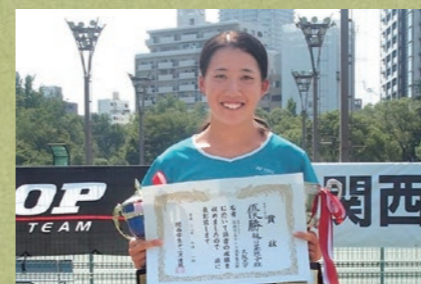


約半世紀ぶりの快挙

阪大生がテニスで関西制覇!

●理学部2年 樋口菜穂子 Naoko Higuchi

関西の大学テニス最高峰トーナメント「関西学生テニス選手権大会」(8月25日～9月1日開催)女子シングルスで、大阪大学体育会硬式庭球部の樋口菜穂子さん(理学部2年)が優勝を果たした。阪大生としては半世紀ぶりの快挙だ。次は全国大会上位進出を目指し、毎日コートで汗を流している。



「関西学生テニス選手権大会」女子シングルスで優勝した樋口さん



■大阪大学体育会硬式庭球部 創部は1907年、部員数22名。豊中キャンパス第1テニスコート(4面あり)で毎週5日間(水・日以外)活動中。リーグは男女それぞれ関西大学4部、3部リーグに所属。リーグ昇格・七大会優勝を最大の目標に日々練習に励んでいる。

▼テニスと勉学を両立するため阪大へ

テニスを習い始めたのは小学3年生のころ。自分で「負けず嫌い」と評する性格もあってめきめき上達し、高校では全国大会ベスト16に入る実力に。ほぼ休みなしで練習に励みながら、「テニスを言い訳にしたいくない」と、勉強にも人一倍打ち込んだ。大学受験では私大からスポーツ推薦のオファーもあったが、「昔から研究者に憧れていた。テニスもやりながら生物学を真剣に学びたい」との理由で阪大を選んだ。



▼悔しさをバネに練習の日々

基本的に毎日2～3時間、男子部員に交じって練習する。「私大の同じ選手に3回続けて負けたのが悔しくて」。その悔しさも強くなるためのバネにした。そうして迎えた今夏の関西学生テニス選手権大会。本戦に進出した64人中、国立勢はたったの4人だ。実力伯仲の相手と競り合う中、持ち前の粘り強さを発揮し、堂々の優勝を飾った。

▼目標は全国ベスト8以上、将来は研究者に

「次の目標は、全国大会でベスト8以上に入る。団体戦でも勝ちたい。そして将来は、生物学の研究者になり、人の役に立ちたい」と夢を語る。「特に今は、授業で学んだiPS細胞に興味がある。テニスの目標も研究者になることも、両方達成したい」と文武両道を目指す。好きな言葉は、「夢は見るものじゃなく、叶えるもの」だ。



緊急取材

世界中が注目 ノーベル賞受賞の「オートファジー」 阪大に国際的な共同研究拠点を

細胞がたんぱく質を分解し再利用する「オートファジー(自食作用)」。2016年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典・東京工業大学栄誉教授と共にこの分野の第一人者と評される吉森保教授は、哺乳類のオートファジーの役割を明らかにし、さまざまな病気との関連を研究している。大隅教授への思いやオートファジーの「これから」を語ってもらった。

●生命機能研究科・医学系研究科 教授
吉森保 — Tamotsu Yoshimori

▲12月10日、ノーベル生理学・医学賞を受賞した大隅良典教授とのノーベル賞晩餐会後の記念写真。スウェーデンの首都ストックホルムの市庁舎にて。写真:左・大阪大学・吉森保教授、右・東京工業大学・大隅良典栄誉教授

ノーベル賞の授賞式と晩餐会は予想通り厳かで感動的でしたが、それだけではなく凝った演出のパフォーマンス・歌・音楽があって極上のエンターテイメントでもありとても楽しめました。ノーベルウィークと言ってほぼ1週間毎日レセプションやクラシックコンサートがあり、我々でも疲れたので受賞者は大変だったと思います。

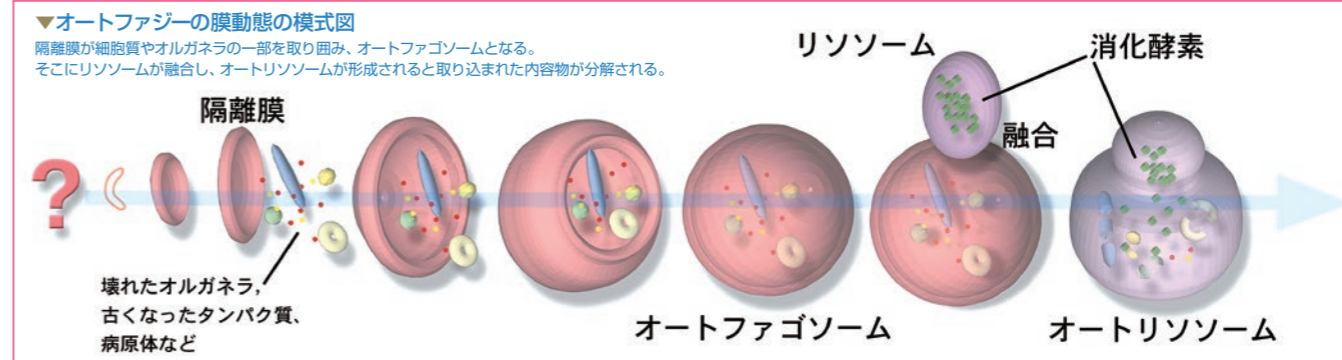
Mail from Tamotsu Yoshimori



●吉森保(よしみり たもつ)
1981年大阪大学理学部卒業。同医学研究科博士課程中退。関西医科大学助手、基礎生物学研究所助教授、国立遺伝学研究所教授を経て、2006年に大阪大学微生物病研究所教授。09年生命機能研究科、医学系研究科教授。15年東京大学の水島昇教授と共に「哺乳類オートファジーの分子機構と生理機能の研究」により上原賞。その他、文部科学大臣表彰科学技術賞、トムソン・ローター「世界で最も影響力のある科学者(高被引用論文著者)」など。



▲10月27日、ノーベル賞受賞の決定を受けて、大隅教授と研究仲間「七人の侍」*のメンバー、吉森教授(写真右端)も集まり、京都市内の居酒屋で祝杯を交わした。
*「七人の侍」=大隅教授を含めた、研究分野が近く、交流のある同世代の研究仲間7人



◎大隅教授のノーベル賞受賞がさらなる研究の弾みに

大隅良典教授のノーベル賞受賞を知ったとき、「いつか受賞されると思っていた。私の夢でもありました」と、愛知県岡崎市の基礎生物学研究所で大隅教授と共に研究していた(ニューズレター67号掲載)吉森保教授は喜びをかみしめた。受賞決定後に初めて大隅教授と会ったのは、受賞の約3週間後。「取材対応が大変そうでした。でも、『受賞しても自分には変わらないよ』と普段どおり淡々としていました。研究の話はしませんでしたね」と笑う。

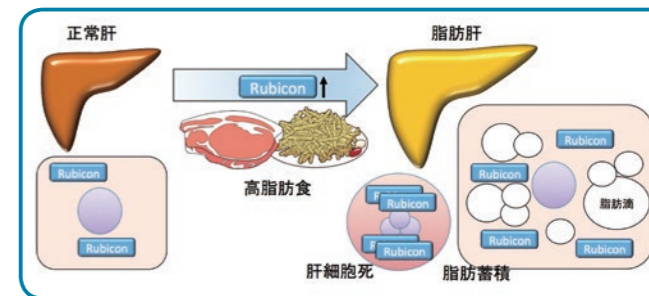
大隅教授の受賞理由について、「1993年に酵母で関連遺伝子を見つけたことが大きい」と指摘する。実はオートファジーの現象自体は60年代に発見されていたが、当時の手法ではそれ以上調べることが難しかった。しかし、大隅教授が酵母細胞のオートファジーの仕組みを世界で初めて解明し、研究が飛躍的に進んだ。今では、オートファジーがうまく働かなくなると、神経難病のパーキンソン病やアルツハイマー病、糖尿病などを引き起こすと考えられている。「受賞でさらに研究に弾みがつく」と顔がほころぶ。

◎基礎研究と臨床応用をまたぐオートファジーセンター設立

大阪大学でも次々と研究業績を重ねた吉森教授は、幅広い臨床応用を見据え、2015年に医学系研究科内に基礎研究と臨床応用をまたぐ「オートファジーセンター」を設立。センターでは、消化器内科や免疫アレルギー内科など多数の臨床研究の教室と連携し、オートファジー

と病気との関わりを研究している。

2016年9月には、生活習慣病の脂肪肝が、オートファジーの働きを抑えるたんぱく質ルビコンの増加で引き起こされることを、マウスを使った実験で明らかにした。今後、ルビコンをコントロールすることで脂肪肝の治療への応用が期待されている。



▲オートファジー抑制因子Rubiconが肝臓内の脂肪蓄積と肝障害を引き起こす

◎メカニズム解明が次の課題

吉森教授は「オートファジーに関わる病気のメカニズムを明らかにすることが次の課題。オートファジーはどの細胞にもある基本的な機能なので、仕組みを見極めればいろいろな病気に有効な治療ができる可能性がある」と語る。センターの役割は一層重要性を増す。「基礎と臨床が連携してオートファジーを研究している組織は世界でも他にない。阪大がイニシアティブを取り、国際的な共同研究の拠点にしたい」と意気込んでいる。

ゲリラ豪雨の予測を可能に

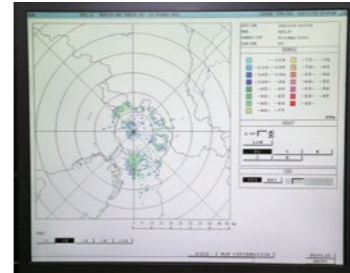
高速・高分解能気象レーダを研究開発

工学研究科 准教授
牛尾知雄 — Tomoo Ushio

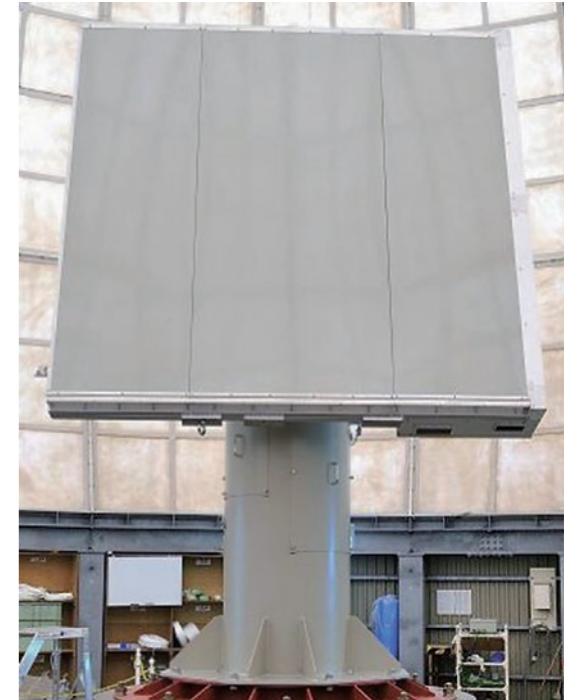
2016年度大阪科学賞を受賞した牛尾知雄准教授。受賞理由は「フェーズドアレイ気象レーダの研究開発」。ゲリラ豪雨などの予測手法の研究開発などに活用しており、今は次世代型レーダの研究に取り組んでいる。



●牛尾知雄(うしお ともお)
1993年大阪大学工学部電気工学科卒業。98年同工学研究科博士課程修了(工学博士)。同年アメリカ航空宇宙局(NASA)マール宇宙飛行センター研究員。2000年大阪府立大学大学院工学研究科助手。06年より現職。
〈工学研究科の屋上に設置されたフェーズドアレイ気象レーダの前(吹田キャンパス)〉



(写真上/左)
フェーズドアレイレーダのコントロールユニット。レーダが捉えた降水分布観測の様子とモニター画面
(写真右)
ドームの中に収められたフェーズドアレイレーダ。世界最速のスキャンニングが可能なレーダでゲリラ豪雨や竜巻の観測が可能。また世界にこの1台しかない



世界最高精度の雷嵐観測用レーダネットワーク【雨】

1. 研究目的
近年、竜巻やゲリラ豪雨などのシビア現象が多発
⇒局所的かつ短時間の現象は従来型レーダでは観測が困難
高い時間分解能、距離分解能をもつレーダを開発
シビア現象の発生、生成過程を観測、解析

2. 開発したレーダ

<p>フェーズドアレイレーダ</p> <p>Xバンド (9.430GHz) 距離分解能 100m 時間分解能 10秒 大阪大学吹田キャンパス</p>	<p>Ku帯広帯域レーダ</p> <p>Kuバンド (15.75GHz) 距離分解能 4m 距離分解能 1分 庄内空港 北大阪でのネットワーク観測</p>
---	--

3. 観測結果

フェーズドアレイレーダ
2012年6月末より稼働開始
仰角方向に電子走査を行うため、1回転で全天観測可能
⇒3次元での高速スキャンが実現

KU帯広帯域レーダ
▶庄内空港における観測
高度240mにおける観測
(左:反射強度 [dBZ], 右:ドップラー速度 [m/sec])
■低層渦(竜巻?)の細かい構造を捉えている

▶北大阪におけるネットワーク観測
豊中 此花 枚方 合成
■高い時間分解能によりゲリラ豪雨の感度を観測
■今後のネットワーク観測化や計算機の進歩により、さらなる高精度化、高速化が期待
■観測不可能領域の相互補完

◎大気現象を解明し迅速な予知・警報が可能に

近年、甚大な被害をもたらすゲリラ豪雨や竜巻などが増加傾向にある。「フェーズドアレイ気象レーダ」は、10秒間隔で詳細な3次元の降水分布を100mの分解能で観測できる。「128本のアンテナ素子を配列して、従来のパラボラタイプのようにアンテナを機械的に何度も回転させる必要がありません。アンテナ素子の一本一本を電子的・ソフトウェア的にコントロールすることで、わずか30秒(以前は5~10分)で60°の圏内・高さ15kmの三次元情報を隙間なく計測できます」。今後、大気現象の生成やメカニズムの解明、予兆現象の検出が進むことで、より迅速な予知・警報が可能になる。

◎「豪雨の卵」の発生から消滅までを連続観測

フェーズドアレイ気象レーダは2012年、吹田キャンパス工学研究科の屋上に完成した。「ゲリラ豪雨をもたらす積乱雲(豪雨の卵)は10分

程度で急速に発達します。高く発達した積乱雲の中に強い降雨域が分布し、それが変化しながら地表面に達する様子を30秒ごとの連続したムービーとして観測できました」。その成果は、注意喚起や避難指示などの防災対策に結びつくとして大きな注目を集めた。内閣府のプロジェクトの一環として実証実験がスタートしたほか、理化学研究所のスーパーコンピュータ「京」とレーダのデータを組み合わせた「ゲリラ豪雨予測手法」なども開発された。

◎未来の可能性を信じる楽しさが研究を支えた

当初、米国で雷放電に関する研究に取り組んでいた。「雷放電は積乱雲の生成に伴って発生しますが、雷放電と積乱雲の生成や構造を捉える各々の装置は、時間的な分解能が異なるため、データを合わせても詳細な解析ができませんでした。高分解能を持つレーダの必要性を痛感し、現在の研究にシフトしました」

研究の可能性を世界に示すため、学生たちと高分解能レーダを手作

りし、学会などで発表。当初は予算が限られ苦労も多かったが、「可能性を信じて夢で取り組んでいた。『坂の上の雲』のように未来しか見えておらず、その楽しさが研究の大変さを支えていたように思います」

◎自分を信じ自分に素直になることが大切

現在、雨滴の大きさを正確に推定することで降雨量を明確に予測できる、次世代の「偏波型フェーズドアレイ気象レーダ」の研究を進めている。「気象庁などが持っている気象予測のノウハウ、進歩が著しい計算機性能、我々の高速・高分解能レーダによるデータが組み合わせることで、近い将来、気象予報は飛躍的に進歩するはずだ」

信念は「自分を信じ、自分に素直になること」。大阪大学の後輩たちには「新しいことをしようとする」と反対も多いが、勇気を持って自分のアイデアに挑戦しないと成果は出ない。他の人の意見をしっかりと聞いたうえで、自分がどう思うかを優先し、真剣勝負してほしい」とアドバイスする。

第34回(平成28年度)大阪科学賞

〈授与機関〉大阪府、大阪市、一般財団法人大阪科学技術センター

創造的科学技术の振興を図り、21世紀における新たな発展と明日の人類社会に貢献することを目的として、将来有望な若手研究者で顕著な研究成果をあげた者に対し授与する



医学系研究科 教授 竹田 潔
●腸管の恒常性維持機構の解析
工学研究科 准教授 牛尾知雄
●フェーズドアレイ気象レーダの研究開発



尖った「50点の人」がいい 少年時代から続くこだわりのものづくり



目標に向かって貪欲に
「夢のまた夢」に挑戦してほしい

●豊島浩二(とよしま こうじ)氏
大阪大学工学部で船舶海洋工学を学び、1985年卒業。同年トヨタ自動車に入社。カラー設計室、レクサスLS製品企画室を経て、2011年11月から次世代環境車全般を取りまとめる部署「ZF」で、3、4代目プリウス、プリウスPHVのチーフエンジニアに就任、現在に至る。また、災害に強い地域をめざした自動車の外部電源普及活動「SAKURAプロジェクト」を主宰。

社員証を入れているネームホルダーには
いちごのマークがあしらわれている



企業情報

■トヨタ自動車株式会社 (愛知県豊田市トヨタ町1番地)
豊田佐吉が創業した豊田自動織機製作所内に1933年に開設した自動車部が起源。1937年トヨタ自動車工業株式会社設立。現在はプリウスのほか、クラウン、カムリ、カローラなど数多くの車種を生産、販売。世界で有数の規模を誇る日本の自動車メーカーで、2012年～15年、販売台数は4年連続で世界一。

1997年に世界初の量産ハイブリッド車として誕生した「プリウス」。環境にやさしく、ドライバーの快適性を追求する同車の4代目は、2015年12月に発売されて以来、抜群の販売台数を誇り、「快走」を続けている。その開発責任者が豊島浩二さん。大阪大学で学んだ知識と学生時代のアルバイト経験が豊かな感性を育て、理想の車を生み出した。

●OB訪問

●トヨタ自動車株式会社
Mid-size Vehicle Company MS製品企画
ZF チーフエンジニア
豊島浩二 — Kouji Toyoshima

■1000人以上いるトヨタ阪大同窓会の幹事長

オフィスで久しぶりに会った女性社員と談笑する豊島浩二さん。2人とも社員証のネームホルダーにいちごのマークを付けていた。「僕が入社した時はトヨタ自動車大阪大学出身者は300人ぐらいだったのが、今では1000人以上、互いに顔を知らない人が増えました。いちごのマークを付けていると、すれ違った時に阪大の卒業生だと一目でわかり、コミュニケーションがとれて仕事がスムーズに進みやすくなります」。トヨタの同窓会「阪大会」幹事長として、いまも母校を想い続けている。

■「社会に貢献するものを作りたい」と阪大工学部へ

子供の頃から機械いじりが大好きで、「ラジコンなどの中身はどうなっているのか?」と分解しては元に戻せず、親によく叱られました。「二次試験で苦手な英語がなかったの…」と冗談を交えて大阪大学を選んだ理由を語るが、「社会に貢献する大きくて動くものを作りたい」と船舶海洋工学、振動工学を専攻。「勉強にはきちんと取り組んでいましたが、夜中に大学で実験しては朝に帰る生活で、担当教授から『どこに行っているんだ』とよく怒られました」。勉強ばかりでなく、友人たちとドライブを楽しむなど、充実した学生生活を送った。



トヨタ自動車株式会社 本社 技術本館前で

プリウスならではの「なめらかな走り心地」など試乗の感覚をガムで表現した「プリウス試乗味ガム」



■アルバイトで培ったビジネス感覚とコミュニケーション力

なかでも、その後の人生に役立っていると実感しているのは、「社会勉強」と位置づけて3年間頑張った個人商店でのアルバイト。「野菜と魚を売っていました。小さな店だったので商売全体が分かり、ビジネス感覚を身につけられました。また、大阪のおばちゃんたちを相手にものを売るコミュニケーション力も鍛えられました」と笑顔で振り返る。

■お客様に密着した車づくり

トヨタに入社以来、ずっとこだわっているのは「お客様に密着した車づくり」。学生時代に通学やドライブで車に乗っていた経験も活かし、1人のドライバーとして感じる快適性、利便性を追求している。

例えば、過去に尾骨骨折したために長時間座ってられない豊島さんは、その経験から「僕には硬めのシートに座るとお尻がむずかくなる『お尻センサー』があって、僕が長時間座っても気持ちいいのの一つの基準に開発しました」と話す。

座右の銘は「想像できることは創造できる」。2016年12月からはEV車の開発と普及に取り組み、「より環境にいい車を」と新たな夢に向かって走り続けている。

■夢に巡り会えるかは努力次第

大阪大学で学ぶ後輩に、「目標に向かって貪欲であってほしい。最近では、言われたことをそつなくこなす80点の優等生が多いですが、私は自分のやりたい仕事だと目の輝きが違うという尖った50点の人材がほしい。夢に巡り会えるかどうかは自分の努力にかかっています。『夢のまた夢』に挑戦してほしい」と熱いエールを送る。





キャリアサポーターによる進路相談の様子

あらゆる業界に人脈を持つ、社会で活躍できる阪大生を輩出したい

●全学教育推進機構 教育学習支援部 講師
キャンパスライフ支援センター キャリア支援ユニット 兼任
家島明彦 — Akihiko Ieshima

「キャリアサポーター」とは、進路が決まった阪大生のことを指す。後輩の学生に進路や就活などに関するアドバイスを行い、就活経験者の目線で独自の就活イベントなどを企画運営する。大阪大学マスコットキャラクター「ワニ博士」のリクルートスーツバージョンが目印だ。

その統括を務める家島明彦講師は「就活生にとって、同じ大学の先輩の話は非常に参考になる。キャリアサポーターとのやりとりを通じて、学生は目の前の就活を乗り切るだけでなく、生涯を通じて自分が何をしたいのか、自らのキャリアをしっかりと考え、社会に出ていくようになる」。また「支援する側のキャリアサポーターも、多様な業界に就職する仲間のキャリアサポーターたちと交流することで、タテにもヨコにも人脈をつくることができる」と、制度の意義を話す。

3期目を迎えた今年度は約45名の阪大生がキャリアサポーターに登録し、1期生から数えて延べ100名を突破。しかし、就職する卒業生・

修了生の総数からすると割合はまだ少ない。家島講師は「本当は進路決定した全阪大生に登録してほしい。キャリアサポーターの人脈は将来絶対に阪大生の役に立つし、この制度は阪大のブランディング戦略でもある」と話す。

2016年度には、在学生が低学年からキャリア支援イベントの企画や補助に携わる「キャリアサポーター Jr.(ジュニア)制度」もスタート。「大学生の早い時期からキャリア形成意識を高め、学部・研究科、業種などを越えたネットワークづくりに取り組んでほしい」と家島講師。

更に家島講師は「より多くの阪大生にキャリア形成意識を培ってもらい、卒業後、市民社会の新しいリーダーになってほしい」と想いを語った。

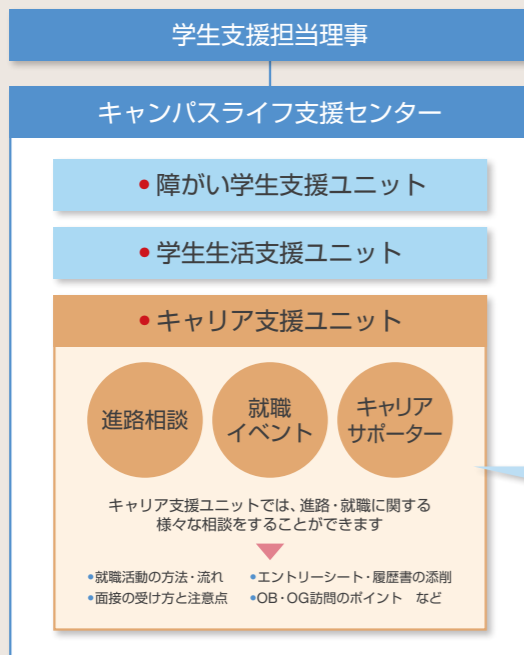


CAREER SUPPORT

学生に生涯を通じて活躍してほしい！

—特徴的な制度で阪大生のキャリア形成をサポート！—

●大阪大学のキャリア支援体制



大阪大学公式マスコットキャラクター「ワニ博士」
(リクルートスーツバージョン)▶



大阪大学では学生が生涯を通じて活躍できるよう、キャリア支援に注力している。その中心的役割を担う組織が、キャンパスライフ支援センターのキャリア支援ユニットだ。同ユニットは、進路相談や就職イベント開催などで、学生の就活やキャリア形成をサポートしている。なかでも、進路が決まった先輩学生が後輩学生を支援する「大阪大学キャリアサポーター制度」は大きな広がりを見せている。この特徴ある制度を立ち上げた家島明彦講師にその目的や意義を、現役&OGキャリアサポーターの2人に、活動内容や自身の成長などについて聞いた。

- 各キャンパスで進路相談が可能です
〈豊中キャンパス〉… 学生交流棟2階
〈吹田キャンパス〉… ICホール1階
〈箕面キャンパス〉… 研究・講義棟 A棟1階



博士就職座談会



模擬面接



就職イベント



キャリアサポーター関係者

Voice

●キャリアサポーターOG

就活時の経験を後輩に繋ぎたい



●若林 真美 さん
株式会社コーエイ総合研究所
保健・社会保障プロジェクト室
(医学系研究科医学専攻 博士後期課程
2016年修了)

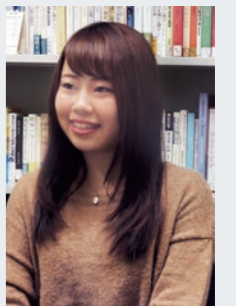
博士後期課程修了後に民間企業に就職した自分の経験を、同じような立場の後輩に伝えたいと思い、キャリアサポーターとして半年間活動しました。そこでは、博士就職相談会などを企画・運営し、また自分が相談担当にもなりました。相談を受ける際には、自分が就活時に感じていた「博士後期課程の学生の就職に関する情報が少ない」ことを意識し、同じ立場にいる後輩の不安を解消できるようにアドバイスしました。また、キャリアサポーター同士でも卒業後のキャリアパスなどについて本音で話し合う機会がもてました。

Voice

●現役キャリアサポーター

後輩を支える喜びを感じている

●片山 梨紗 さん
外国語学部4年(株式会社ビズリーチに内定)



就活で悩んでいた時期に、さまざまな社会人と話す機会があり、そこで社会の現場で働く人たちと話すことの大切さを痛感しました。そのため、就活生と阪大OB・OGをつなぐイベントを企画したいと内定後に考え、キャリアサポーターに応募しました。そこでは、「学生にとって本当に価値ある就活イベントは何か」を、仲間と一緒に突き詰めて考え、模擬面接、社会人OB・OGによるキャリアトーク、少人数のグループワークを柱とした独自イベントを企画・開催しました。事後のアンケート調査で「採用担当でない社会人とフランクに会話でき、参加して良かった」などの声が寄せられ、とても嬉しく達成感がありました。

共同宣言書 大阪大学、医薬基盤・健康・栄養研究所、ダイキン工業の3者が共同宣言書に署名しました！



(左から) 井上礼之ダイキン工業取締役会長兼グローバルグループ代表執行役員、西尾卓治郎大阪大学総長、米田悦啓医薬基盤・健康・栄養研究所理事長



ダイバーシティ環境実現のための共同宣言

男女雇用機会均等法の施行から30年となる本年、女性活躍推進法が施行され、女性の活躍を求める社会の要請は一層強まっています。私たち3機関は、このような社会からの負託に応えるべく、平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に申請し、この度採択を受けました。

一人ひとりがどのようなライフステージにあってもその個性と能力を最大限に発揮できる、自由闊達なダイバーシティを実現することは、21世紀社会の最重要課題です。この課題を解決し、より良き未来社会の礎を築くためには、なによりもまず男女協働推進を強化しなければなりません。

私たち3機関は、10年にわたる研究教育面での連携に基づき、世界を希望に満ちた未来へと牽引するフロントランナーとして、以下の取組を推進することを宣言します。

- 一、機関内の男女間不均衡を是正し、意思決定過程への女性参画を拡大すること
- 一、優秀な女性がキャリアアップできる体制を構築すること
- 一、学修・研究・就業と家庭生活の両立支援を加速すること
- 一、意識改革、働き方改革を進め、多様な構成員がその個性を尊重される環境の実現を図ること
- 一、産学官民の協働を進め、社会の発展に寄与すること

大阪大学は、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所(医薬健康研、NIBIOHN)とダイキン工業株式会社(ダイキン工業)を戦略的パートナーとして、ダイバーシティ環境実現の礎となる女性研究者育成をさらに強化することを確認し、9月1日(木)に共同宣言書に署名しました。

共同宣言の背景

この度、大阪大学は、平成28年度科学技術人材育成費補助事業(文部科学省)「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に採択されました。

大阪大学は、医薬健康研ならびにダイキン工業と10年にわたる研究教育面での連携実績を有しています。このプロジェクトの実施体制として、平成28年度に大阪男女協働推進連携協議会を設立し、平成31年度には「女性研究者循環型育成クラスター」を構築して、女性研究者の活躍促進を強力に牽引していく決意を新たにしています。

協定締結 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構(量研機構)と協定を締結しました

平成28年10月13日付で、「国立大学法人大阪大学と国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構との包括的連携協力に関する協定書」を締結しました。

本協定の締結に基づき、両機関が持つ研究開発力や最先端研究設備などの研究環境、優れた人材を活かして、新たな連携・協力の枠組みを構築することにより、様々な分野における科学技術・学術の振興やイノベーション創出に大きく貢献することを目指します。

また、今回この協定のもとに、量研機構関西科学研究所と大阪大学レーザーエネルギー学研究所との間で「光・量子ビーム科学に関する連携協力に関する覚書」を同時に締結しました。両研究所の研究ポテンシャルを相互に有効活用し、組織的連携を行うことにより、国際競争力のあるパワーレーザーの開発とその利用研究が大きく加速することが期待されます。



平野俊夫量研機構理事長(右)と西尾卓治郎総長(左)

ご寄付いただきました皆さまへ

大阪大学未来基金へのご寄付に対しまして、心よりお礼申し上げます。ご寄付いただきました皆さまへの感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。引き続き、大阪大学の未来に向けたご支援をよろしくお願い申し上げます。



2016年12月
大阪大学 総長 西尾 章治郎

▼2016年8月～2016年10月ご寄付分を掲載 <寄付実績> 4,343,209,903円 / 18,377件(2016.10.31時点)

●個人寄付者ご芳名(敬称略・五十音順) 234名 うち掲載を希望されない方 54名

青木 忠孝	岡田 宏二	北川 祥子	島 亨	竹中 清哉	中瀬富美子	平田 仁志	宮川 トシ	山口 彰久
有澤 圭子	岡田 常雄	北川千恵子	下村 浩藏	竹野内勝次	中西 達哉	平野 俊夫	宮崎 裕介	山崎 研志
飯田 昌二	岡谷 銅	吉川 隆一	上仁 義一	舘 勝則	中村 毅彦	深水香津子	宮田 弘	山崎 俊信
池内 茂	岡林 秀和	橋高きみ代	新城 功雄	立井 潤也	中村 弘一	福並 正剛	宮原 秀夫	山崎 秀典
石村 崇二	岡本 高宏	木下 雅己	菅 宏	田中賢一郎	中山 純次	藤川 隆	三輪 孝	山里 啓太
伊勢 忠司	岡本 恵和	木村 浩人	杉谷 明夫	谷脇 清隆	難波 誠	藤木 久	向井健太郎	山田 公子
伊東 和雄	荻野 理史	久保 隆彦	杉原 桂太	田村 邦夫	西島 直	藤田 佳久	向川 了	大和 義人
伊藤 敬史	奥田 晋也	久保田一二郎	鈴木晋一郎	土屋 信之	西村 知志	船津 定見	村田 一郎	山野 克史
伊藤 桂祐	小坂田宏造	熊谷 信昭	鈴木 博才	堤 征一郎	西村 典子	星見 広徳	村田佳子郎	山本 稔
井戸博史	押原 涉	黒田嘉次郎	鈴木不二男	寺脇 肇	野地 正吉	穂積 幸男	妻鹿 友弘	山本 陽一
井上 雅一	井上 達雄	肥塚 裕至	鈴木 胖	常盤 成紀	野間 啓造	本田 光徳	森 康次	湯 久浩
岩坪 玲子	笠山 宗正	齋藤 道子	砂村 継夫	徳田 葉子	則末 尚志	榎田敬次郎	森川 友博	横井 弘昌
上木 正博	片山 大	坂手 寛治	千貫 菊子	戸田 益男	込田 利勝	松浦 和之	森島洋太郎	吉岡 康裕
上江洲律子	門脇 宣孝	櫻井 康介	田岡 崇行	豊島 正久	長谷川 保	松田 安弘	森田 竜廣	吉川 正道
上田 和光	兼吉 知寛	佐々木康彰	高橋 憲明	仲 厚吉	花岡 秀典	松田 陽子	森田 哲司	吉田 慎司
上中理香子	川島 祥一	佐藤 康司	瀧川 泰行	中井 馨	花房 昭静	松原 央	守谷 隆史	吉田 富子
上西 康文	川端 智樹	澤井 裕	瀧本 忠司	中井 泰明	林 章弘	松本 正幸	八木 利典	吉野 恭介
遠藤 智弘	神田 修治	重信 匡志	滝本 進	永井 玲子	原 修	真鍋 馨	安留 勇二	若林 崇
大嶋隆一郎	菊池 邦夫	篠崎 哲徳	田口安希子	仲澤 昭人	原田 豊	光岡 貞夫	次矢 武史	渡邊 一雄
大野 一幸	岸本 博人	白杵 慶子	竹内 克明	中島 巖	平井 正文	宮井 一郎	山内 秀樹	渡邊 奉昭

●法人寄付者ご芳名(敬称略・五十音順) 24団体 うち掲載を希望されない団体 2団体

一般財団法人恵済団	株式会社安田商店	浜松ホトニクス株式会社
一般社団法人生産技術振興協会	株式会社ワンキャリア	ブルカー・バイオスピン株式会社
医療法人社団青心会	サラヤ株式会社	山口電気工事株式会社
大阪大学生協同組合	サンポリマー株式会社	有限会社尾田教育産業
株式会社日本冷蔵	新教育総合研究会株式会社	淀川食品株式会社
株式会社小松製作所	ソフトバンク株式会社	LIKE up Dance Studio (Happy Spray)
株式会社デジタルガレージ	智の木協会	
株式会社ポッカクリエイト	日本電気株式会社	

●教職員寄付者ご芳名(敬称略・五十音順) 39名 うち掲載を希望されない方 9名

東 明彦	馬越 大	木村 正	ジェリー ヨコタ	高橋 亮一	中村 麻貴	安田 俊浩	吉田富士江
足立 博行	大野 英子	小巻 善郎	柴田 政彦	常深 博	原田 明	山中 伸介	吉成 信人
磯山 悟朗	掛下 知行	坂和 洋一	新谷 紀人	仲野 和彦	藤田 岳志	山根 聡	
伊藤 正	鬼澤 佳弘	佐藤 宏介	高木 慎吾	中野 貴志	森 雅志	吉川 秀樹	

大阪大学未来基金のご案内

大阪大学では、学術研究や教育・人材育成を目的とする「大阪大学未来基金」を設けております。大阪大学の未来を支えるため、企業、団体、個人のみならず皆様からのご支援をお願い申し上げます。

【ホームページは [大阪大学未来基金](http://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp) で 検索 www.miraikikin.osaka-u.ac.jp】

未来基金についてのお問い合わせは、大阪大学渉外本部未来基金事務局までご連絡をお願いいたします。
【大阪大学渉外本部未来基金事務局】 TEL:06-6879-8327 FAX:06-6879-4337 e-mail:kikin@office.osaka-u.ac.jp

受賞・表彰
Awards and Recognition

西尾章治郎総長が文化功労者に



西尾 章治郎 総長

西尾章治郎総長が、情報科学の分野においての多大な功績が評価され、文化功労者に選ばれました。情報システム及びネットワーク環境の急速な発展を敏感に察知し、定説的な概念にとらわれることなく、現実のシステムに立脚した創造性豊かな研究開発により、実社会における情報システム構築に大きく貢献したことが評価されているのです。

西尾総長
コメント

これまで、情報科学分野の発展、ひいては社会全体の発展に少しでも貢献できればとの思いで、微力ながら全力を尽くしてまいりました。このたび、文化功労者として顕彰いただける報せに接し、大変驚いておりますと同時に、過分なる光栄なことであり、身が引き締まる思いでございます。

ご指導いただいた恩師、諸先輩の方々や日々の研究を共にした研究者達など、関係のすべての皆様から感謝申し上げます。今後は、大阪大学総長として、文化の多様性を尊重しつつ、卓越した人材の育成と最先端の研究の推進を通じて、我が国の学術の向上に全身全霊を捧げてまいりたいと存じます。

イベント告知
Event Information

大阪大学リーダーズフォーラム

東京で初開催！ 経営層の方の交流の場

大阪大学・大阪外国語大学出身の経営者層の皆さまに、同窓生ならではの交流の場をご用意します。

第5回目の今回は、東京で初開催します。大阪大学の「いま」のご紹介と旬なテーマの講演から、交流会での情報交換やネットワーキングなど、今後のソーシャル・ビジネス活動のお役に立てば幸いです。

- 【日 時】 2月14日(火) 15:30～
- 【会 場】 学士会館(東京・神田)
- 【次 第】 ●おあいさつ：大阪大学総長 西尾章治郎
- 講演：「ゆらぎでひもとく脳とAI」
脳情報通信融合研究センター長
大阪大学 生命機能研究科 特任教授(常勤)
柳田 敏雄(写真)
- 17:10～ 交流会(会費：5,000円)

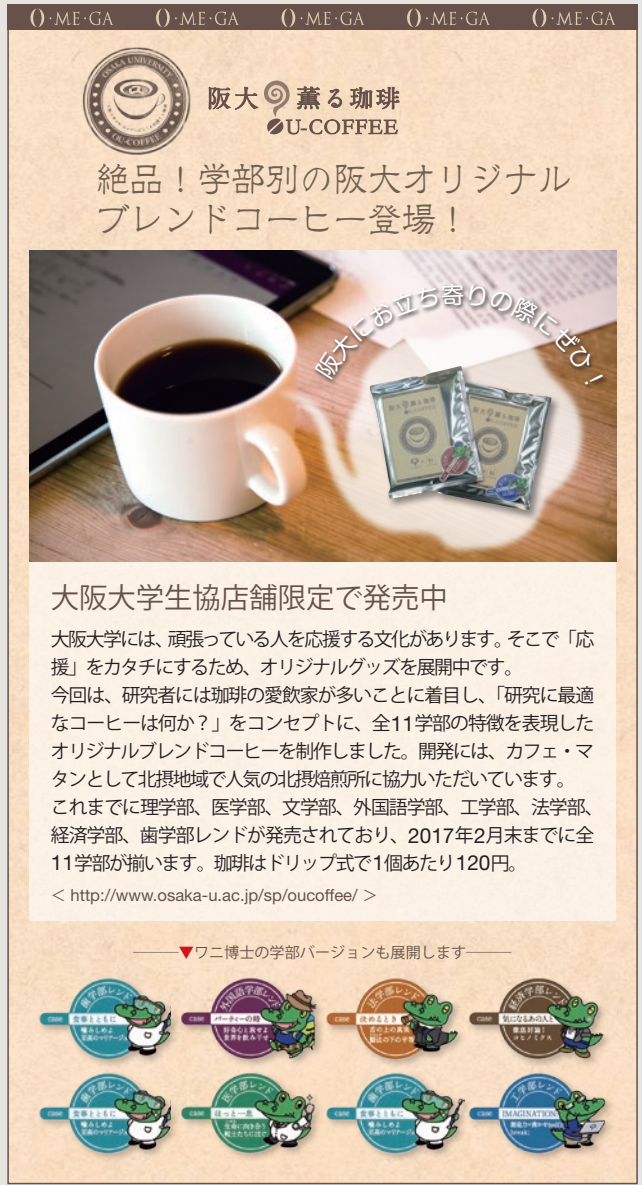


詳細は大阪大学公式ホームページ「イベント情報」をご覧ください。
(<http://www.osaka-u.ac.jp>)



HANDAI
Calendar Winter

雪の人間科学部(大阪大学・吹田キャンパス)



阪大 薫る珈琲
U-COFFEE


絶品！学部別の阪大オリジナルブレンドコーヒー登場！

大阪大学生協店舗限定で発売中

大阪大学には、頑張っている人を応援する文化があります。そこで「応援」をカタチにするため、オリジナルグッズを展開中です。今回は、研究者には珈琲の愛飲家が多いことに着目し、「研究に最適なコーヒーは何か？」をコンセプトに、全11学部の特徴を表現したオリジナルブレンドコーヒーを制作しました。開発には、カフェ・マタンとして北摂地域で人気の北摂焙煎所に協力いただいています。これまでに理学部、医学部、文学部、外国語学部、工学部、法学部、経済学部、歯学部ブレンドが発売されており、2017年2月末までに全11学部が揃います。珈琲はドリップ式で1個あたり120円。

< <http://www.osaka-u.ac.jp/sp/oucoffee/> >

▼フニ博士の学部バージョンも展開します▼



◎バックナンバーは、大阪大学ホームページ www.osaka-u.ac.jp からご覧いただけます。

●大阪大学ニュースレターへのご意見、お問い合わせがありましたら、Eメールで受け付けております。E-mail: newsletter@ml.office.osaka-u.ac.jp